

2020年12月海洋観測結果について

11月25日に栽培漁業センターの調査船「おしどり」により海洋観測を以下の表1、図1の調査点で行いました。調査結果については、当センターホームページ (<https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=201810>) と沿海漁協にはファクシミリで通知します。

表1 観測定点

	調査点	海底水深	経度	緯度
赤碕ライン	ST-1	13m	133.40	35.3100
	ST-2	50m	133.40	35.3430
	ST-3	70m	133.40	35.3736
	ST-4	95m	133.40	35.4340
	ST-5	185m	133.40	35.4805
長尾鼻ライン	ST-6	185m	134.00	35.4300
	ST-7	95m	134.00	35.4000
	ST-8	70m	134.00	35.3700
	ST-9	50m	134.00	35.3400
	ST-10	13m	134.00	35.3200

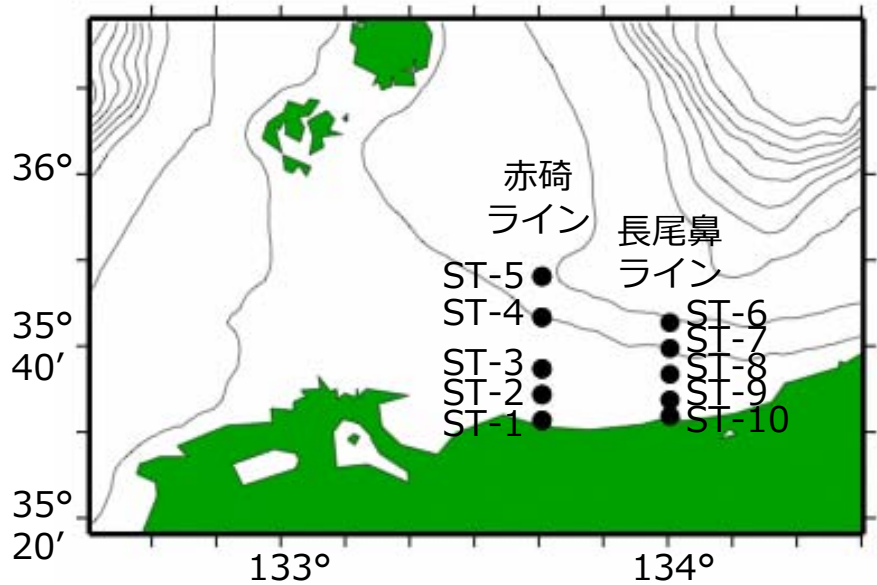


図1 観測定点

【鉛直分布図】

海況が悪く、長尾鼻ラインのみの観測となりました。気温の低下に合わせ、鉛直混合が進み、長尾鼻では-92mまで19℃以上でした。-92m以深では、-147m (11℃) まで概ね直線的に水温低下しており、山陰若狭沖冷水塊の一部が鳥取県中部沖に接岸していた影響で、-182m以深では2℃以下の水温が確認されました。

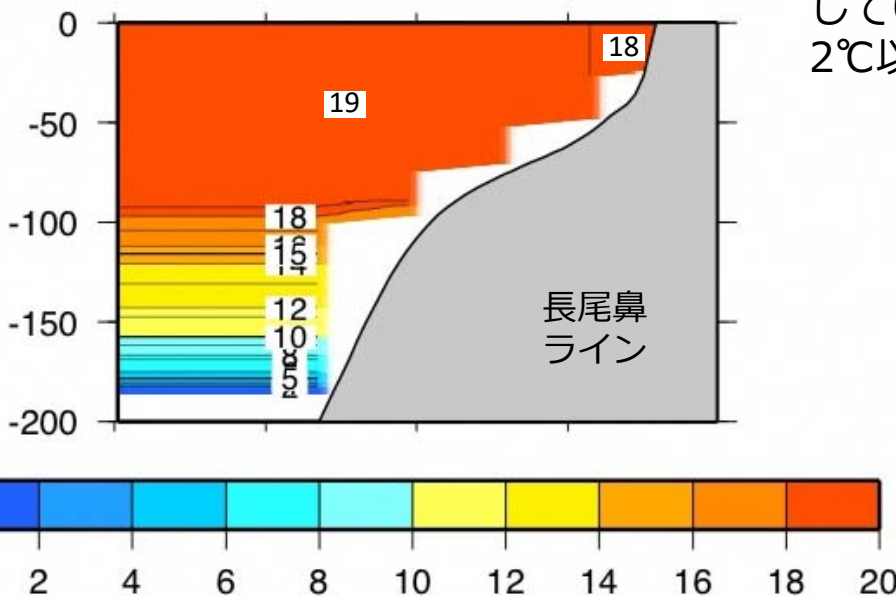


図2 鉛直分布図 (海水温の単位：℃)

★サワラ情報★

海水温が高い影響か北陸からのサワラ1,2歳魚の南下が遅れているようです。

沿岸域では水温が18℃台になり、餌のカタクチイワシの稚魚(めんぱ)の固まりが見られるようになり、11月25日の操業では白兔～酒津沖で曳縄釣でそこそこの漁がありました。やっとサワラが南下してきたかもしれません。

【12月観測の水深帯別の比較】

2015年以降は、4-10月観測と期間的な海洋観測でしたが、今年度から周年実施することとしています。過去のデータとして比較できるのは3年分しかありませんが、今年の水温はかなり高い数値でした。

表2 長尾鼻ラインの水深帯毎の平均水温

調査定線	長尾鼻ライン (134° 00')			
水深帯	0m	30m	50m	90m
2020年	19.0	19.2	19.2	18.9
2011-13年平均	15.8	16.1	15.9	15.5
平年差	3.2	3.1	3.4	3.4

【2020年9月の主要魚種の漁獲動向】

鳥取県漁獲情報システムの9月速報値から、主要魚種の漁獲量比較を行いました。総漁獲量は、前年、5年平均（2015-19年）を下回りました（図3）。前年、5年平均をヤリイカ（19tイカ釣）、カンパチ（あかひら）は上回り、スルメイカ、ケンサキイカ（白いか）、サワラ、かわはぎ類は下回りました。

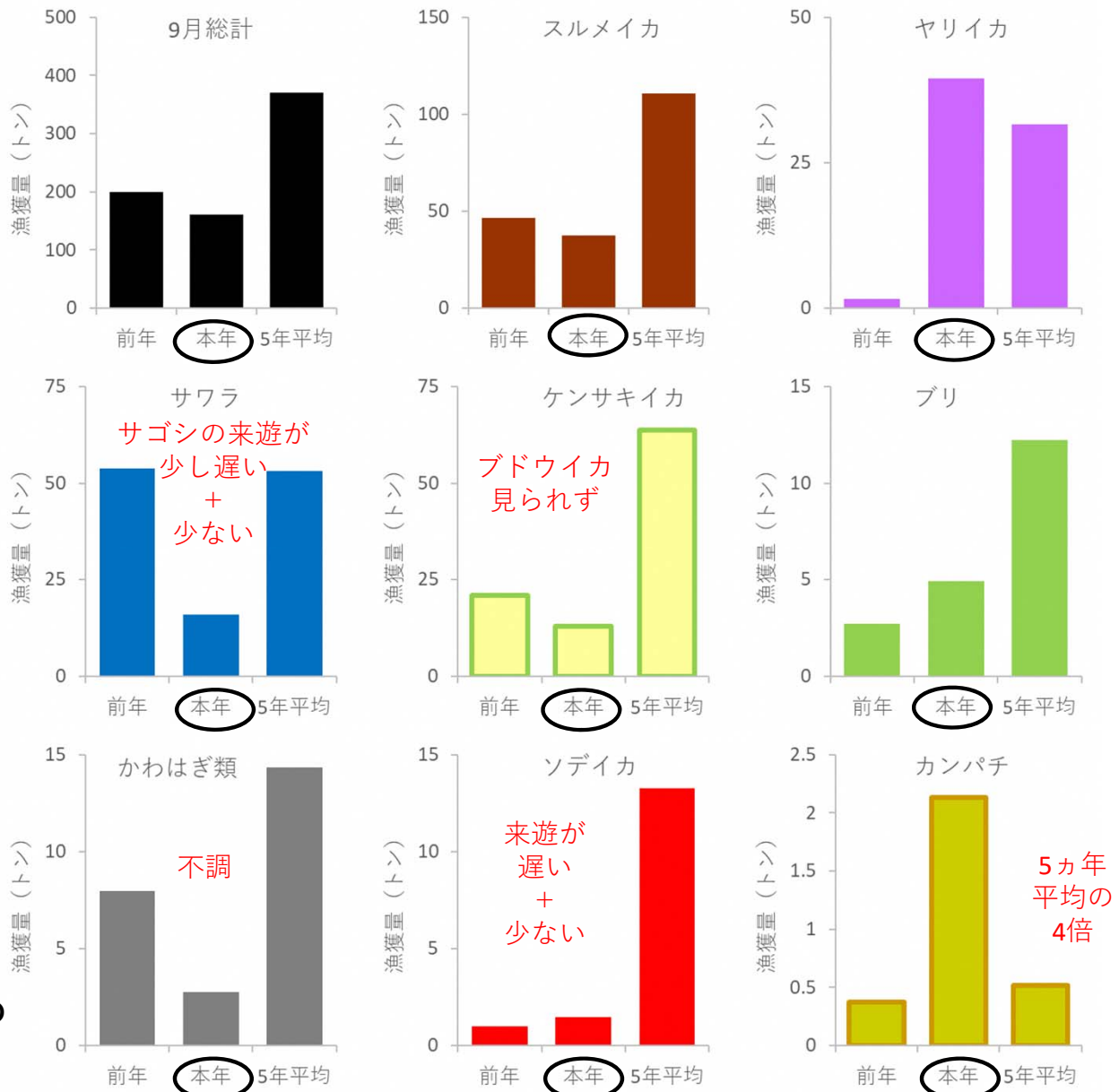


図3 9月沿岸漁業の主要漁獲物の漁獲状況